

保護者の皆様

吹田市立吹田第六小学校
校長 田淵 久美子

令和元年度「学校教育診断アンケート」結果分析について

向春の候、皆様におかれましてはますますご清祥のこととお慶び申し上げます。また、平素より本校の教育活動にご理解とご協力をいただきありがとうございます。

さて、12月に実施しました学校教育診断アンケートにつきまして、今年度は日頃の学校生活や重点取り組みを中心に子ども18項目、保護者15項目について設問いたしました。保護者の皆様からは89%の回答をいただきました。感謝申し上げます。



結果分析のご報告前に、大変嬉しい出来事をお伝えしたいと思います。





5年生の林間学習で、最後に挨拶いただく中での、バスの運転手さんからお言葉です。「昨日、出発前、皆さんをバスの中で待っていました。その時、お母さんと幼い子どもが、自転車に乗っていてこけてしまいました。すると数人の子どもたちが走ってきて、そのこけた2人を起こして助けたのです。ランドセルを背負っていたので、皆さんの学校の4年生か6年生です。皆さんの学校には素晴らしい生徒さんがいるのですね。そんな素敵な学校で過ごされていることを誇りをもって、ぜひ、皆さんも立派な6年生になってがんばってください。」

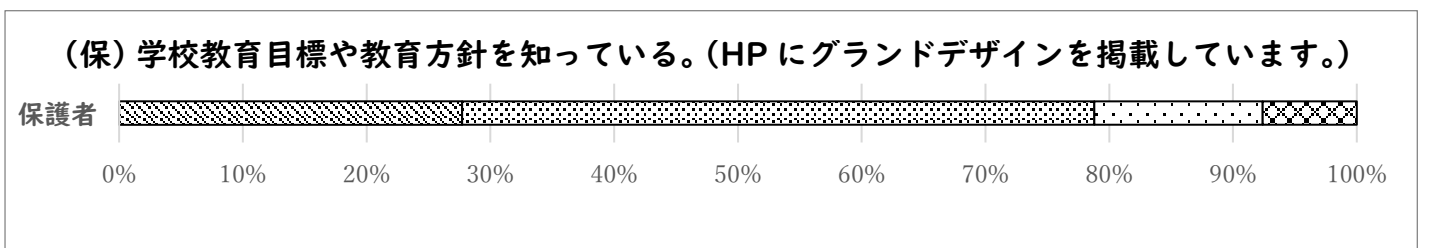
バスの運転手さんに感謝です。そして、思いやりあふれた数人の子どもたちへ拍手を送りたいと思います。本校がめざす子どもたちの姿です。

以下に集計・分析結果をお伝えするとともに、いただきました貴重なご意見を真摯にうけとめ、次年度への改善のため、教職員一同さらなる努力を積んでまいりたいと存じます。

【回答の仕方】

低学年(1年2年3年)の回答は2択  はい  いいえ

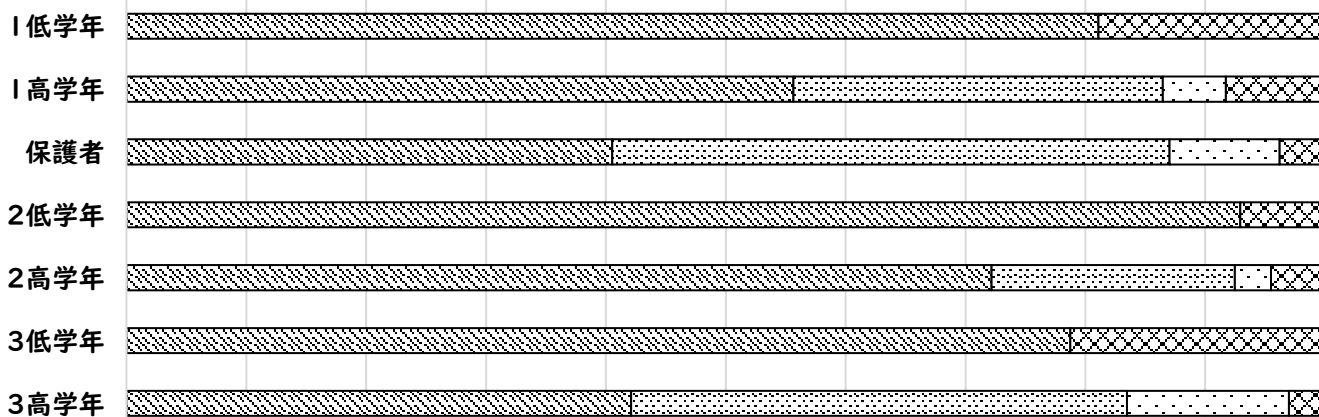
高学年(4年5年6年)と保護者の回答は4択  そう思う  どちらかと言えばそう思う  どちらかと言えばそう思わない  そう思わない



教育目標もと、今年度は多様性教育を重点取組に教育活動を行ってきました。今後も教職員一同、教育目標の実現に向けて努力を重ねてまいります。

- 1 (低) 学校へ行くのが楽しい。
- 1 (高) 学校へ行くのが楽しい。
- (保) 子どもは学校へ行くのを楽しみにしている。
- 2 (低) 友だちといっしょに楽しく遊んでいる。
- 2 (高) 友だちといっしょに楽しく遊んでいる。
- 3 (低) 先生や友だちや来校者にあいさつをしている。
- 3 (高) 先生や友だちや来校者にあいさつをしている。

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%

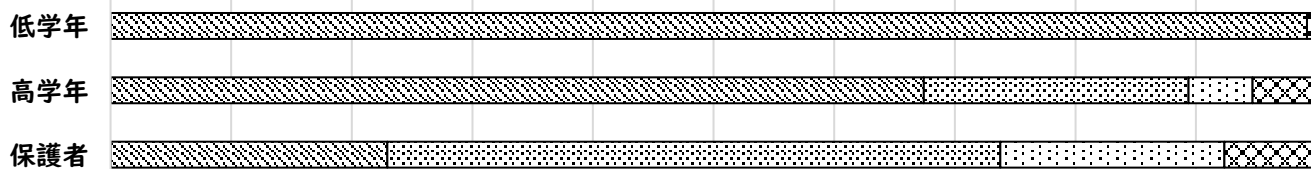


8割強の子どもたちが「学校へ行くのが楽しい」と回答し、保護者の皆様からも同様の回答をいただきました。また9割以上の子どもたちが「友だちといっしょに楽しく遊んでいる」と回答しています。今後もさらに「楽しい学校」づくりをめざします。

1学期に比べ「あいさつ」のできる子どもが増えてきました。今後は自分からあいさつできる子どもたちを育てたいと考えます。

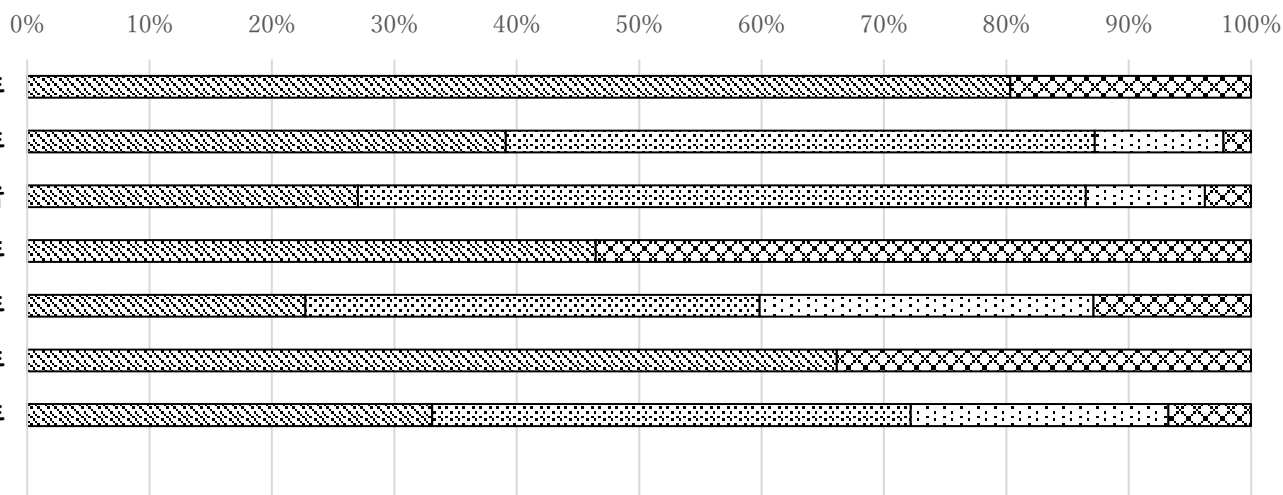
- (低) 吹六フェス、運動会、遠足などの学校行事は楽しい。
- (高) 吹六フェス、運動会、遠足などの学校行事は楽しい。
- (保) 子どもは特別活動を通して、自主性や実践力が育ってきている。
(学校行事・児童会行事・校外学習・体験学習・宿泊学習等)

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



学校行事は子どもたちにとって、特別なもののようです。低学年においては100%に近い肯定回答がありました。学校行事にはそれぞれ目的があります。今後も内容の見直し、改善を含め、子どもたちの自主性や実践力、仲間との協働など、子どもたちが主体的・対話的で深い学びにつながる活動をすすめていきます。

- 1 (低) 先生は教え方にいろいろな工夫をしているので授業がわかりやすい。
- 1 (高) 先生は教え方にいろいろな工夫をしているので授業がわかりやすい。
- (保) 教職員は分かりやすい授業・工夫された授業づくりに努めている。
- 2 (低) 授業で自分の考えをまとめたり、発表することがよくある。
- 2 (高) 授業で自分の考えをまとめたり、発表することがよくある。
- 3 (低) 授業でわからないことについて先生に質問しやすい。
- 3 (高) 授業でわからないことについて先生に質問しやすい。



低学年では8割の子どもたち、高学年では9割近くの子供たちが「授業がわかりやすい」と回答しました。保護者の皆様からも高学年同様に回答をいただきました。残り1、2割の子どもたちの気持ちをしっかりと受けとめ、さらなる授業改善に努めます。

「授業で自分の考えをまとめたり、発表することがある」「授業でわからないことは先生に質問しやすい」の設問では課題がみえたので、以下に整理して改善策をまとめます。

- ・話すことが苦手でみんなの前で発表したり、意見を言うことに抵抗がある子どもへの手立てと支援。
- ・間違ふことをおそれて言えない子どもへの手立てと支援。

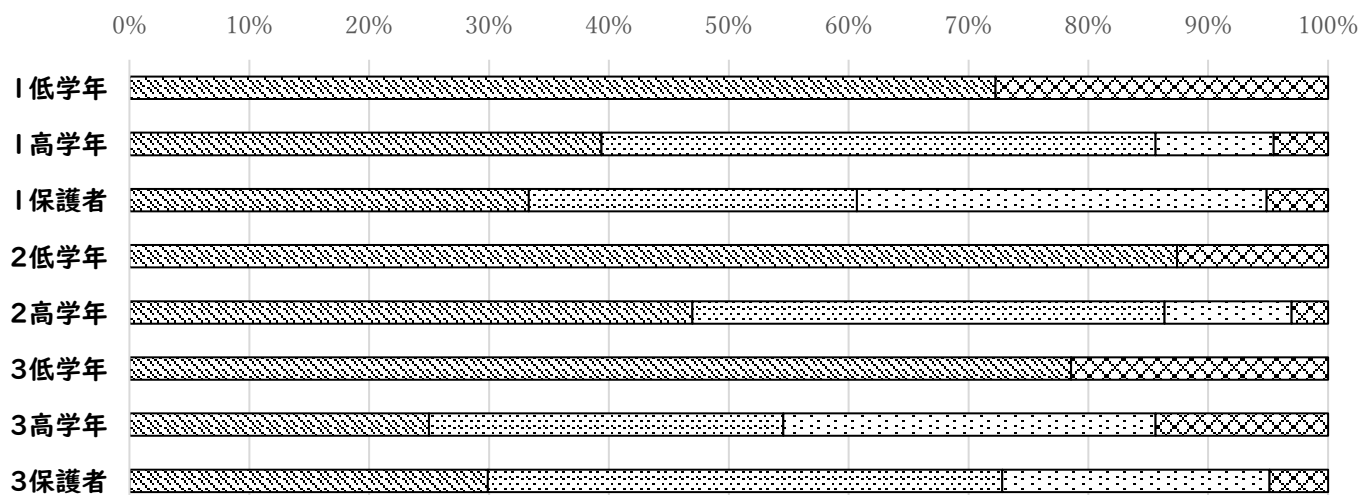
大きくはこの2つについて改善が必要であると考えます。

今後も『教室はまちがうところだ!』(まちがってもいい)の姿勢で授業をすすめます。

また、学校朝礼や各学級でも繰り返している「あたたかい聴き方」「やさしい話し方」の充実を図ります。さらに、授業中に言えなかったことは休み時間でも質問できる環境をつくれるよう検討していきます。

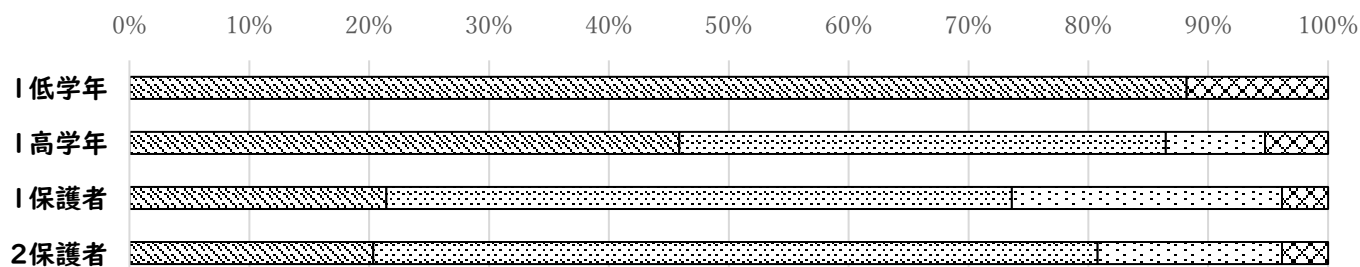
次年度は国語科のモジュール学習で言語力(話す・聞く・話し合う・書く)の充実をめざし、計画しています。どの教科の授業においても自分の意見を発表する場面や話し合う場面を増やしていきます。

- 1 (低) 先生はわたしたちの意見や話を聞いてくれる。
- 1 (高) 先生はわたしたちの意見や話を聞いてくれる。
- 1 (保) 教職員は、子どものことを理解している。
- 2 (低) 先生は、自分が努力したことを認めてくれる。
- 2 (高) 先生は、自分が努力したことを認めてくれる。
- 3 (低) いろいろなことを相談できる先生がいる。
- 3 (高) いろいろなことを相談できる先生がいる。
- 3 (保) 子どものことについて、気軽に教職員に相談できる。



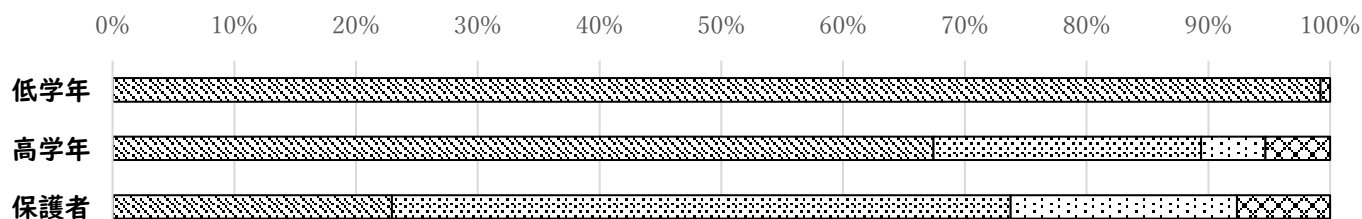
8割以上の子どもたちが「先生は努力したことを認めてくれる」と回答していますが、先生が話を聞いてくれないと感じている低学年が3割弱います。子どもへの寄り添いを含め、担任以外の教職員も積極的に子どもたちと関わるよう努めます。

- 1 (低) 「思いやり」について教えてもらっている。
- 1 (高) 「思いやり」について教えてもらっている。
- 1 (保) 学校は、一人ひとりを大切にして、思いやりの心を育てている。
(重点取組み)
- 2 (保) 重点取組みである多様性教育を理解している。



子どもたちの中に「思いやり」が浸透しつつあります。冒頭でも述べましたように「困っている人がいれば手を差しのべられる子」「相手の立場に立って考えられる子」の育成をめざします。保護者の皆様にはさらなる理解をいただけるよう、教育活動の充実を図るとともに、取組みを発信していきたいと考えます。

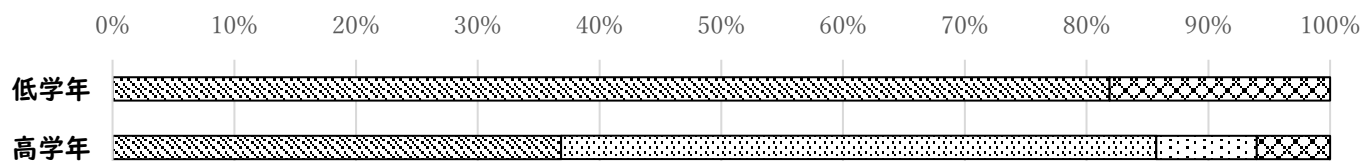
- (低) いじめは、どんな理由があっても許されないと思う。
- (高) いじめは、どんな理由があっても許されないと思う。
- (保) 学校は、いじめのない学校づくりに取り組んでいる。



今年度、いじめアンケートの大幅改訂をしました。これまでの「こころとからだのアンケート」からいじめに特化した内容に改訂です。また、年間3回毎学期実施し、実施後は一人ひとりの子どもから丁寧な聞き取りをしてきました。さらに聞き取ったあとの対応や指導は担任一人だけでなく、関係教職員チームで検討し対応にあたってきました。

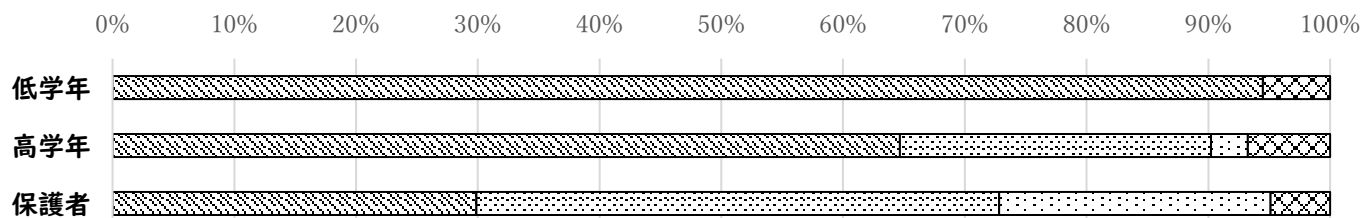
学校朝礼や児童集会、道徳科の授業、また日頃の学校生活の中でも「いじめ」について話をかさねてきました。今後も100%の肯定回答をめざして取組みを継続していきます。

- (低) 学校の決まりを守っている。
- (高) 学校の決まりを守っている。



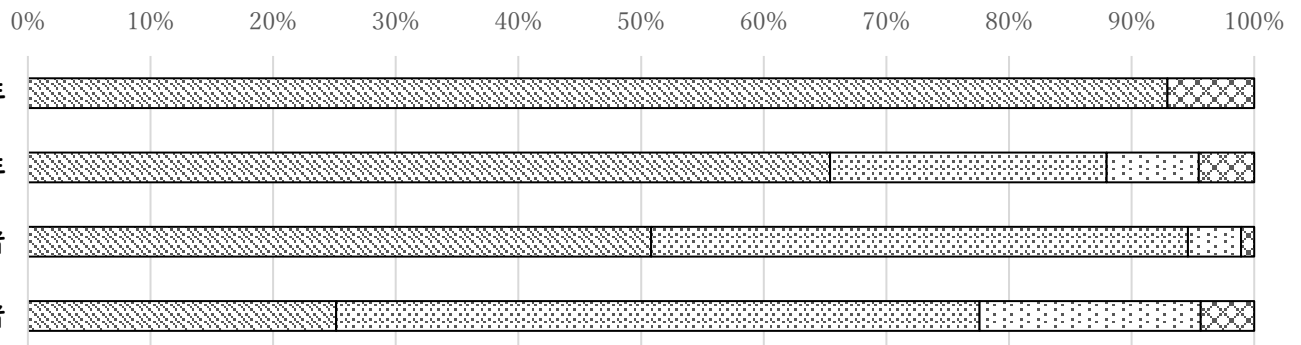
8割以上の子どもたちが「きまりを守っている」と回答していますが、すべてのこどもたちにルールの大切さが理解できるよう指導に努めます。また、次年度は生徒指導体制の見直しと強化を考えています。

- (低) 学校の宿題をきちんとしている。
- (高) 学校の宿題をきちんとしている。
- (保) 子どもは家庭学習（宿題・自主学習・読書）が身についている。



9割以上の子どもたちが宿題をしていると回答している中、保護者の皆様からは家庭学習が身につけているのは7割であるという回答でした。宿題や読書を含む家庭学習の大切さは、子ども自身が理解するのは難しいでしょう。しかし大人は、小学校の頃から家庭学習の習慣をつけていくことで、中学校や社会に出た際に必ず役に立つことを知っています。どうぞ、ご家庭におかれましても、子どもたちが前向きになれる助言をお願いします。

- (低) 地震や火災などが起きたとき、どうしたらよいか教えてもらっている。
- (高) 地震や火災などが起きたとき、どうしたらよいか教えてもらっている。
- 1 (保) 台風・地震、その他の緊急時の対応について知っている。
- 2 (保) 学校は、安心安全な学校生活を送れるよう、危機管理に努めている。

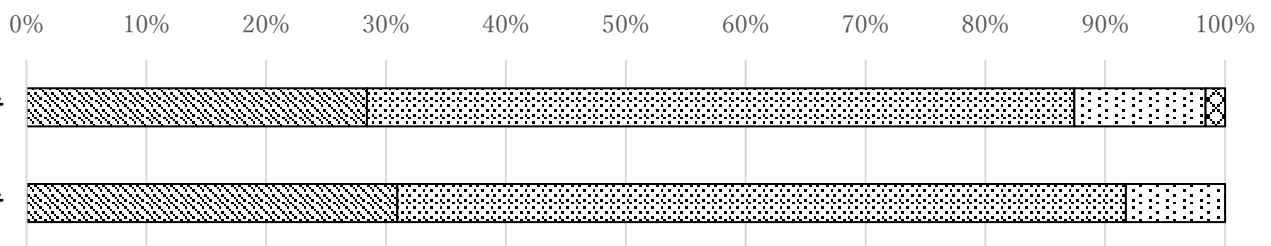


今年度、急な雷や学級閉鎖等で、子どもたちの安全確保のため、一斉下校や集団下校の対策をとってきました。また、保護者の皆様の協力でお迎えの支援をしていただきました。ありがとうございました。

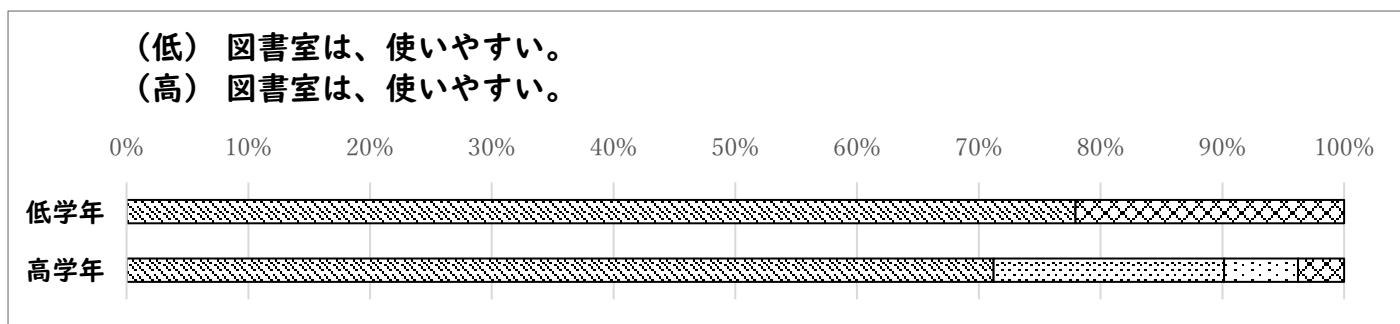
大人も子どもも、未曾有の災害が起きる可能性があることを充分理解する必要があると考えます。いつ・どこで・何が起こっても、まず自分の命は自分で守れる力が不可欠です。学校では避難訓練を中心に、いざというときにとるべき行動を、継続して育てていきます。

今年度、緊急時（災害・不審者侵入等）に備え、各担任がトランシーバーを携帯して、対応できる対策をとりました。今後は生活指導面とともに子どもが安心して学校生活を送れるよう努めてまいります。

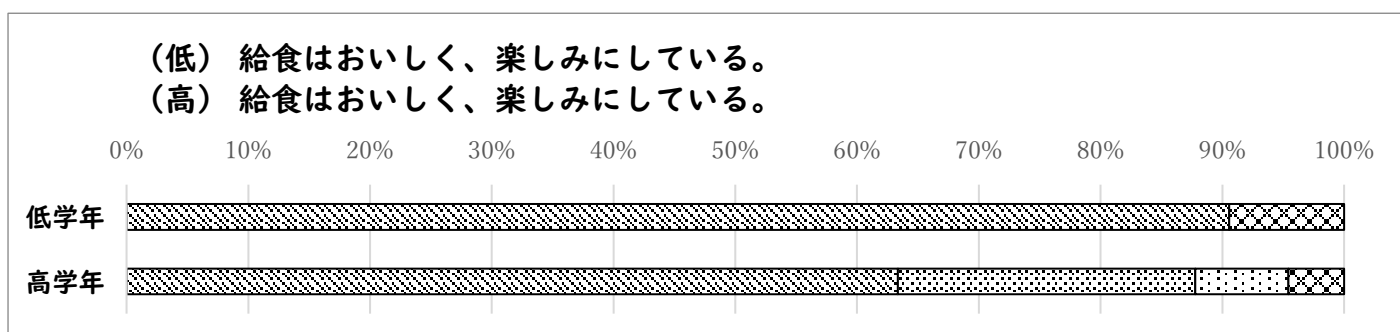
- 1 (保) 学校は、保護者・地域の方々と連携・協力している。
- 2 (保) 学校は子どもの様子や教育活動について情報提供を行っている。



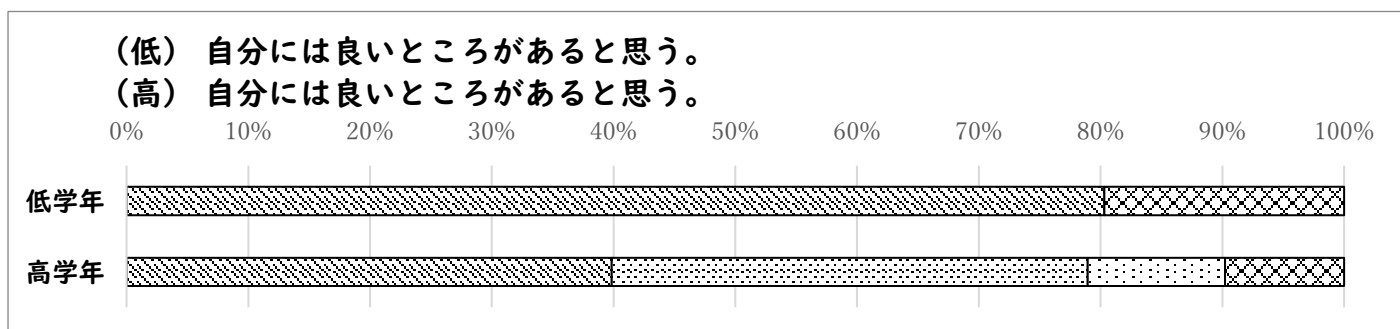
教職員・子ども・保護者（地域）を含めた「チーム吹六」を念頭に置いて教育活動に取り組んできました。保護者の皆様からは9割前後の評価をいただきありがたく感じております。しかしながら、1割前後の皆様が「どちらかといえばそう思わない」と感じておられることを、真摯にうけとめて、さらなる連携に努めます。



低学年では使いにくさを感じている子どもが2割強いました。図書室の有効な活用とともに、読みやすく使いやすい環境設備を整えるよう、読書支援員との検討を重ねます。



9割前後の子どもたちが、給食を楽しみにしていると回答がありました。ただ、残飯が多いことは課題としてあります。給食指導のみに限らず、「食べる」ことの大切さについて食育の取組みを継続していきます。



8割の子どもたちが「自分には良いところがある」と回答しています。そう感じていない「自己肯定感」「自尊感情」の低い子どもたちが2割です。

子どもたちは一人ひとり持ち味があり、みんなちがってみんないいのです。子どもが自分自身を認め、ポジティブに捉えられるよう、学校ではより一層、「褒める」「認める」「認め合う」あるいは「自信をつける」教育活動の充実を図ります。